

[水稲部門 令和7年度 参考となる研究成果]

事 項 名	イネばか苗病菌のプロクロラズ剤に対する感受性		
ね ら い	<p>本県におけるイネばか苗病対策としては、DMI剤を用いた種子消毒が普及しているが、DMI剤の一種であるプロクロラズ剤（スポルタック乳剤）は東北地域において感受性低下菌が確認されている。そこで、令和6年に県内で発生したイネばか苗病の罹病苗から分離した菌株を用いて本剤に対する感受性検定を実施したところ、感受性低下菌が検出され、防除効果の低下も認められたことから、今後の防除対策の参考に供する。</p>		
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬剤感受性 青森県内において、プロクロラズ剤に対して感受性の低いイネばか苗病菌（感受性低下菌）が確認された（図1）。 2 防除効果 最小生育阻止濃度が25ppm以上の菌株に対して、プロクロラズ剤の防除効果は低い（図2、3）。 3 防除上の留意点 <ol style="list-style-type: none"> (1) プロクロラズ剤の効力の低下が認められた場合は、使用を中止する。 (2) 塩水選を行う。 (3) 罹病苗は見つけ次第抜き取る。 (4) 本田では発生株は見つけしだい抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 (5) 発生田やその近傍からは採種しない。 		
期待される効 果	プロクロラズ剤に対する感受性低下菌の蔓延を防ぎ、的確な防除が図られる。		
利 用 上 の 注 意 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 本資料は令和7年1月19日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任の下に使用すること。 「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/) 		
問 合 せ 先 (電話番号)	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域の水稲 作付経営体
発表文献等	令和6年度 農林総合研究所試験成績概要集 第78回北日本病害虫研究発表会		

【根拠となった主要な試験結果】

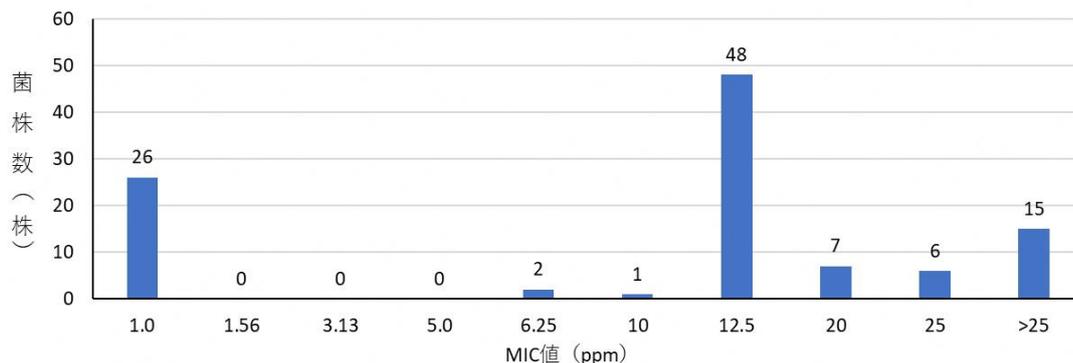


図1 プロクロラズ剤に対する感受性検定 (令和6年 青森農総研)

- (注) 1 令和6年に県内22地点から罹病苗を採集し、単孢子分離した105菌株(東青地域3地点21菌株、中南部地域8地点32菌株、三八地域1地点5菌株、西北地域8地点33菌株、下北地域2地点14菌株)を供試
 2 感受性検定:プロクロラズを添加したPDA培地を用いて、25℃5日間培養後の菌糸伸長の有無を観察し、最小生育阻止濃度(MIC値)を判定

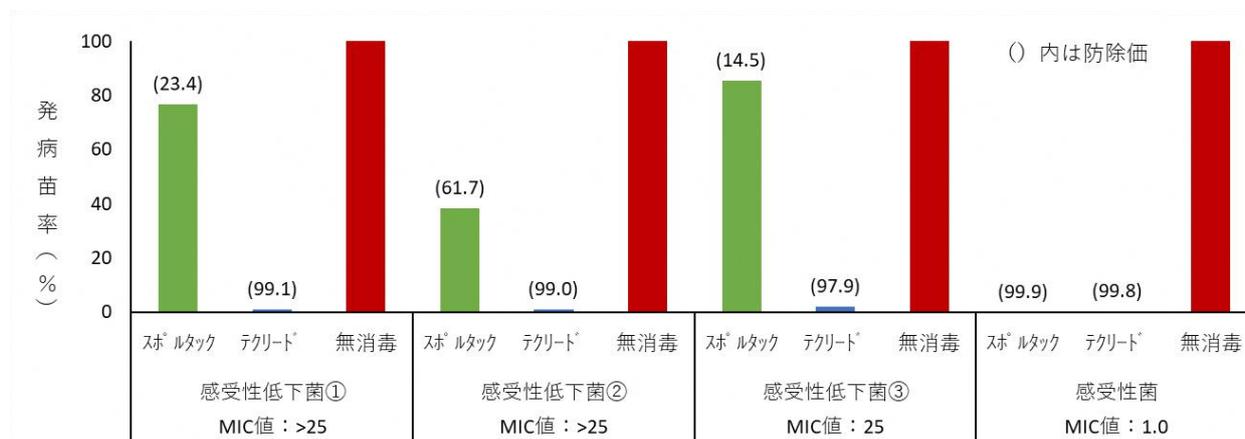


図2 接種籾に対する種子消毒剤の防除効果 (令和6年 青森農総研)

- (注) 1 区制:1区300粒、3反復(発病苗率は3反復の平均値)
 2 接種方法:孢子懸濁液(1×10⁵個/ml)に「ゆめあかり」の種子を入れ、1時間減圧接種後、風乾した。
 3 供試薬剤:スポルタック乳剤1,000倍、テクリートCフロアブル200倍
 4 処理方法:各供試薬剤の希釈液に汚染種子を15℃で24時間浸漬し、その後15℃で6日間浸種、32℃で6時間催芽処理した。播種、覆土後、30℃で2日間加温出芽し、ガラス温室または人工気象器で育苗。
 5 調査方法:第2葉期に全苗を対象に健全苗と発病苗(徒長苗、枯死苗)を調査し、3箱の発病苗率の平均値から無消毒区に対する防除価を算出。



図3 感受性低下菌接種苗及び感受性菌接種苗 (令和6年 青森農総研)

- (注) 1 試験方法、供試菌株は図2と同じ。
 2 無接種区は、健全籾をテクリートCフロアブル200倍、24時間処理。